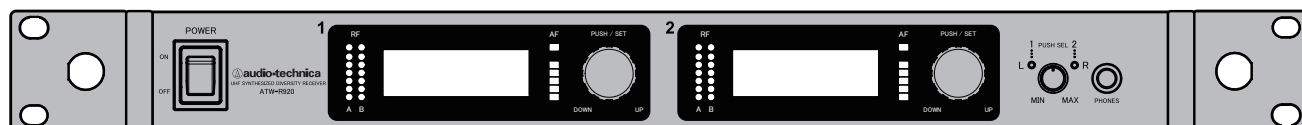


800MHz 帯

UHF SYNTHESIZED WIRELESS RECEIVER ATW-R920



お買い上げありがとうございます。

本製品は 800MHz 帯のワイヤレスシステム用受信機です。

別売の送信機 (2 ピーストランスミッター ATW-T930、ワイヤレスマイクロホン ATW-T940/ATW-T980) と組み合わせてご使用ください。

ご使用になる前にこの説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。

また保証書と一緒にいつでもすぐ読める場所に保管しておいてください。

目次

⚠ 注意	2	グループ / チャンネル組み合わせ表	12
各部の名称と機能 < フロントパネル >	3	操作のしかた	13
各部の名称と機能 < リアパネル >	4	外部アンテナ使用例	13
各部の名称と機能 < LCD ウィンドウ >	5	安定した受信のために	14
受信機の設定	5	フロントアンテナ接続方法	14
接続方法 1 (基本接続)	10	ラックマウントの方法	14
外部アンテナ使用時の注意	10	テクニカルデータ	15
接続方法 2 (カスケード接続)	11	外形寸法図	15

特長

- PLL シンセサイザー方式採用。
A2 型 71 波 / A 型 71 波 / B 型 30 波の切り換えが可能。
- ダイバーシティ方式により、ドロップアウトが少ない安定した受信を実現。
- アンテナ入力端子から DC 12V の出力が可能。別売の外部アンテナやブースターへ電源を供給。
- 暗い場所でも受信状態がわかる表示部バックライト装備。
- RF・AF メーターを LED 表示、優れた視認性を実現。
- ヘッドホンモニター切換スイッチにより、各チャンネル同レベルでの同時モニターが可能。
- 送信機のバッテリー残量などの状態がモニター可能。
- 付属のコネクタキットによりアンテナのフロント取り付けが可能。
- 旧モデル (ATW-T93/ATW-T94/ATW-T98) との互換性をもち運用可能。

本製品は 800MHz 帯のワイヤレスシステム用受信機です。

別売の ATW-T930(2 ピーストランスミッター)、ATW-T940/ATW-T980 (ワイヤレスマイクロホン) と組み合わせてご使用ください。

また、別売の外部アンテナなどと組み合わせることにより、さらに使用範囲を拡大できます。

ATW-R920 はダイバーシティレシーバーを 2 台搭載しており、周波数の異なる 2 チャンネルを同時に使用することが可能なワイヤレス受信機です。

⚠ 警告

発熱、損傷、けが、火災、感電、故障などをさけるため下記のことを必ずお守りください。

- AC100V の電源で使用してください。
- この装置は安全の為、アース接続が必要です。
アース接続は必ず、電源プラグをコンセントにつなぐ前に行なってください。また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから切り離してから行なってください。
- ジャックに異物を入れないでください。
- 異常な音、煙、臭いやコードなどの発熱、損傷などが出ましたら、すぐに電源プラグを抜き、お買い上げの特約店か、当社のプロオーディオ営業部までお問い合わせください。
本機に異常が発生したときに、電源プラグをコンセントからすぐ抜けるようにしてください。
- 電源コードに、無理な力(重いものをのせる、引っ張るなど)を加えないでください。
- 分解や改造はしないでください。
- 強い衝撃を与えないでください。
- 付属の電源コード以外は使用しないでください。



■ 使用上の注意

- 同じ周波数を同時に 2 波使用することはできません。
- 周囲の電波環境や複数台使用により、干渉ノイズを発生することがあります。他グループとの併用は特に干渉を起こしやすいのでご注意ください。
- ワイヤレスシステムは自動車のスパークノイズ、照明用調光装置、コンピューター、OA 機器、電子楽器などの影響を受ける場合があります。影響を受けにくい位置に設置してご使用ください。
- 本製品は必ず当社指定の機器との組み合わせでご使用ください。
- ワイヤレスシステムに使用されている UHF 帯の電波は波長が短く直進性が強いので、送信機と受信機間に障害物があると音切れの原因となる場合があります。見通せる位置関係でご使用ください。
- ミキサーに接続する場合、ファントム電源を OFF にしてください。
- 本製品は電波法に準拠して製造した日本国内専用モデルです。海外の法律には適合しておりません。
海外で使用する各国の法律により処罰されることがありますので、海外ではご使用にならないでください。

⚠ 注意

- 電源プラグの抜き差しは、必ずプラグ部を持って行なってください。
- アンテナで目を突いたりしないようご注意ください。
- 直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かないでください。
- 水がかからないようにしてください。
本機を水滴のかかる場所に置かないでください。
水の入ったもの、花瓶などを本機の上に置かないでください。
- 火気に近付けないでください。
- 布などでおおわないでください。
- 本製品は電源スイッチを切ってもコンセントから供給される電源とは完全に遮断されません。
長時間使用しないときには、電源プラグを抜いてください。
長い間保存するときには、機器をビニールなどで包み、湿気を帯びないようにしてください。



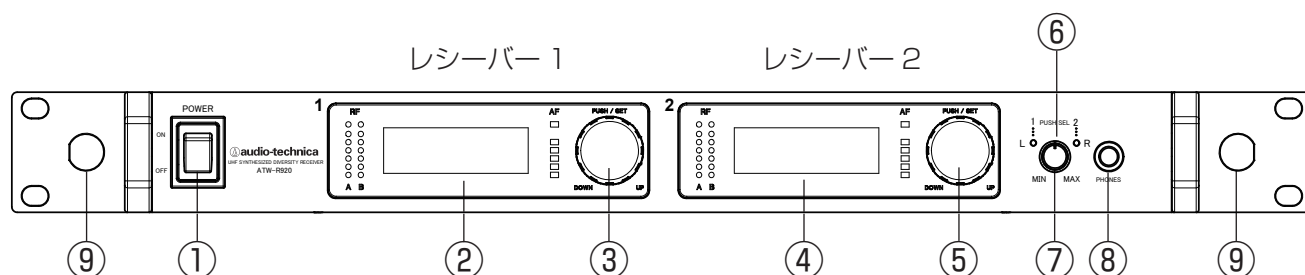
■ 複数のワイヤレスシステムを使用するには

- 6 波以内で同時使用する場合は、A 2 型、A 型、B 型各 1 ～ 6 グループまでの同一グループ内でご使用ください。
- 同一場所で 7 波以上を使用される場合には、当社プロオーディオ営業部までお問い合わせください。
- 複数台同時使用の場合、送信機同士は 80 cm 以上、送信機と受信機は 3m 以上離してください。
- 複数台使用する際は音をモニターしながら送信機の電源を順に ON にして雑音のないことを確かめください。
- 使用時にハウリング(ピー、あるいはキーンという音)が発生した場合、接続しているミキサー / アンプなどのボリュームを絞ってください。

■ メンテナンス上の注意

- 汚れたときやほこりが付いたときは電源プラグを抜いてから、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。
- ベンジン、シンナーなどは使用しないでください。

各部の名称と機能 < フロントパネル >



① 電源スイッチ

スイッチ上部を押すと電源が入り、LCD ウィンドウのバックライトが点灯します。下部を押すと電源が切れ、LCD ウィンドウのバックライトが消灯します。

* 電源を入れても約 5 秒間音声は出力されません。

② ④ LCD ウィンドウ

RF/AF インジケーターなどの受信機の状態や設定のメニューが表示されます。

詳しくは P.5 の LCD ウィンドウ詳細説明をご覧ください。

③ ⑤ ジョグセレクター

LCD ウィンドウの表示や受信機の設定を変えるときに使用します。詳しくは P.5 の「受信機の設定」をご覧ください。

⑥ モニターチャンネルインジケーター

レシーバー 1 およびレシーバー 2 のどちらをモニターしているか表示します。

⑦ ヘッドホンレベル調整ボリューム兼 レシーバー切換スイッチ

モニター用ヘッドホンの音量調整用ボリュームです。ボリュームつまみを押すことにより、モニターするレシーバーを切り換えることができます。

レシーバー「1→2→1+2」の順に切り換わります。

* リアパネルの出力端子のレベルには影響しません。

⑧ ヘッドホン出力 (φ6.3 ステレオジャック)

モニター用ヘッドホン出力端子です。

レシーバー 1 およびレシーバー 2 のモニターができます。

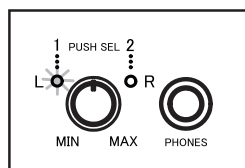
⑨ フロントアンテナ用ホール

付属のコネクタとケーブルを使用することによりアンテナ端子をフロントに取り付けることが可能です。

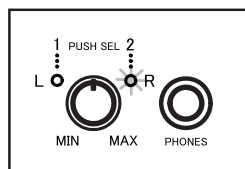
詳しくは P.14 の図を参照してください。

■ モニター用ヘッドホン出力

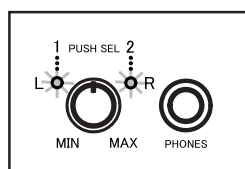
モニター用ヘッドホン出力の音量調整用ボリュームつまみを押すことにより左記矢印の順に切り換えることができます。



..... ヘッドホンの両側からレシーバー 1 が出力されます。

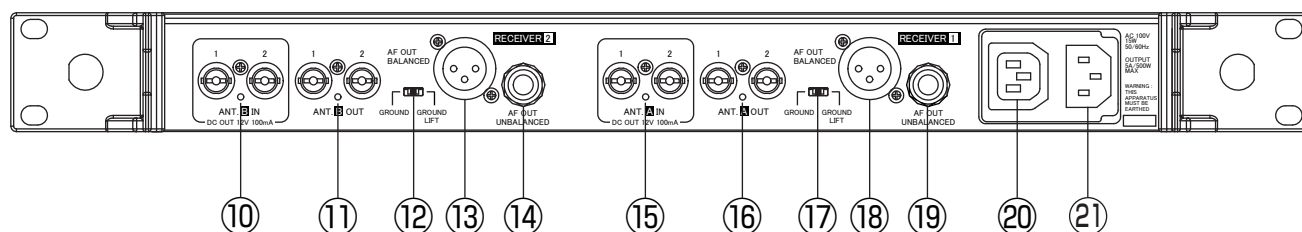


..... ヘッドホンの両側からレシーバー 2 が出力されます。



..... ヘッドホンの左側からレシーバー 1、右側からレシーバー 2 が出力されます。

各部の名称と機能 < リアパネル >



⑩ ⑮ アンテナ入力端子 (BNC 型)

⑩ は、レシーバー 1・2 のアンテナ B の入力端子です。
⑮ は、レシーバー 1・2 のアンテナ A の入力端子です。
ANT-A、ANT-B の各々 2 系統のアンテナ入力のうち、どちらか一方に接続してください。各アンテナ端子から DC12V が出力されています。

(詳しくは P.8 「アンテナ電源の設定」をご覧ください。)
別売の外部アンテナを接続することができます。
P.13 の「使用例」をご覧ください。

⑫ ⑰ グランドリフトスイッチ

バランス出力の GND ピンをシャーシグランドから切り離すスイッチです。
通常は「GROUND」で使用しますが、グラウンドループによるハム音が出る場合はスイッチを「GROUND LIFT」側に切り換えてください。

⑪ ⑯ アンテナ出力端子 (BNC 型)

⑪ は、アンテナ B に入力された信号を分配し出力します。
⑯ は、アンテナ A に入力された信号を分配し出力します。
この端子を使用することにより 1 つの外部アンテナで更に 2 台のレシーバーを接続することができます。

②① AC アウトレット端子

AC インレット端子から供給される電源の出力端子です。
電源スイッチには連動しません。
供給できる最大電力は 500W です。
ATW-R920 を最大 15 台まで接続できます。
ATW-R920 以外の機器は接続しないでください。
付属の電源中継コードを使用してください。

⑭ ⑲ アンバランス出力端子 (φ6.3 モノラルジャック)

⑭ は、レシーバー 2 のアンバランス出力端子です。
⑲ は、レシーバー 1 のアンバランス出力端子です。

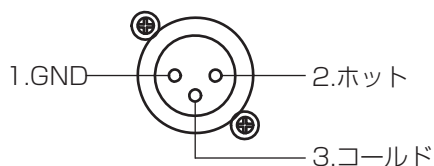
②① AC インレット端子

付属の電源コードを使用し、AC100V 50/60Hz の電源に接続してください。

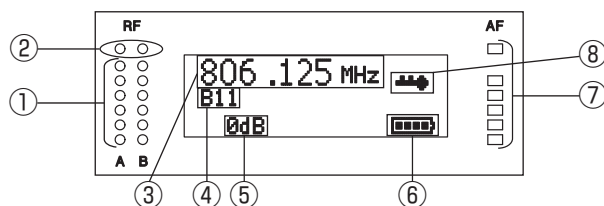
- * 電源コードのアース端子は必ずアースに接続してください。アース接続は必ず電源プラグをコンセントにつなぐ前に行なってください。
- また、アース接続を外す場合は、必ず電源プラグをコンセントから切り離してから行なってください。
- * 本機は日本国内専用モデルです。海外では使用できません。

⑬ ⑱ バランス出力端子 (XLR3 ピンオス)

⑬ は、レシーバー 2 のバランス出力端子です。
⑱ は、レシーバー 1 のバランス出力端子です。



各部の名称と機能 <LCD ウィンドウ>



① RF レベルインジケーター

アンテナ A および B のそれぞれの受信状態を示します。

② レシーバー A/B インジケーター

ダイバーシティの動作状態を表示します。
希望する周波数の電波を受信すると A/B どちらかが点灯します。
* ATW-T940 ミュート時は、点灯しません。

③ 英数字ディスプレイ

通常状態では受信チャンネルの周波数を表示します。
受信機の設定モードでは設定メニューが表示されます。

④ グループ / チャンネル表示

設定されたグループとチャンネルを表示します。
詳細は P.12 「グループ / チャンネル組み合わせ表」をご覧ください。

⑤ AF 出力アッテネーター表示

設定された減衰量を表示します。
バランス出力、アンバランス出力を 0dB、-3dB、-6dB、-9dB、-12dB の値で減衰できます。

⑥ バッテリー表示

送信機のバッテリー残量を表示します。
* ATW-T940 ミュート時および旧モデル (ATW-T93/ATW-T94 /ATW-T98) 使用時は、表示されません。

⑦ AF レベルインジケーター

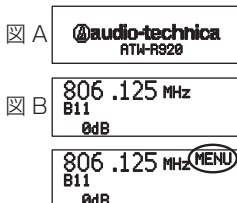
受信した音声信号のレベルに応じて点灯します。
赤が常時点灯する場合は、送信機の AF GAIN レベルを調整してください。詳しくはそれぞれの取扱説明書をご覧ください。

⑧ キーロック

KEY LOCK が ON の場合にこのマークが表示されます。
このマークが表示されているときは、各設定の変更はできません。

受信機の設定

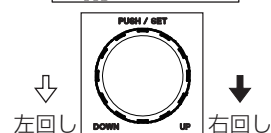
1. 設定メニューの選択 (メニューモード)



電源を入ると左図 A の表示が英数字ディスプレイに現れ、しばらくたつと左図 B のようなデフォルト表示にかわります。

デフォルト表示のときにジョグセクター (P.3 の③ ⑤) を短押しします。英数字ディスプレイの右上に MENU が表示されます。

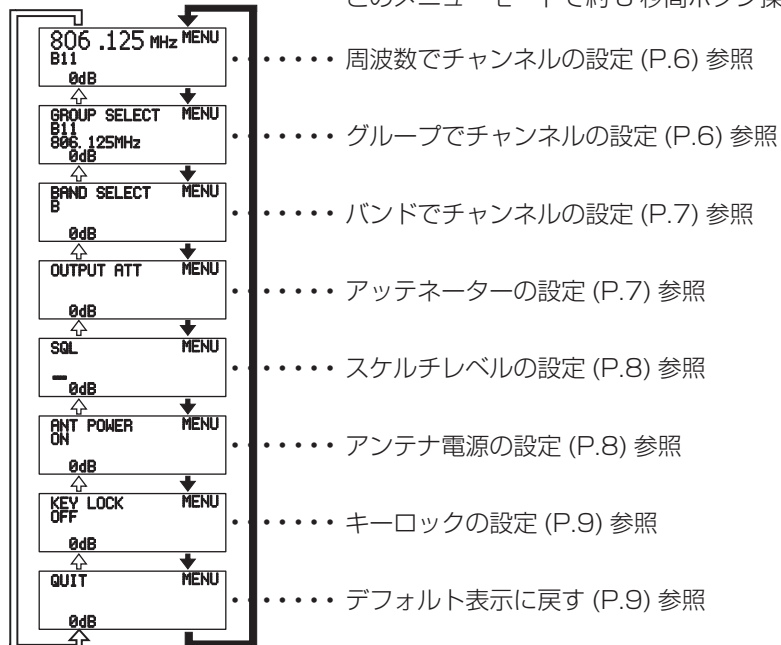
メニューモードに入っているときは右上に「MENU」が表示されます。



ジョグセクターを回すことにより矢印の順に表示内容がかわります。

編集したいメニューを表示させジョグセクターを短押しすると、設定モード (EDIT モード) に入ります。

このメニューモードで約 8 秒間ボタン操作を行なわないとデフォルト表示に戻ります。



2. 周波数でチャンネルの設定

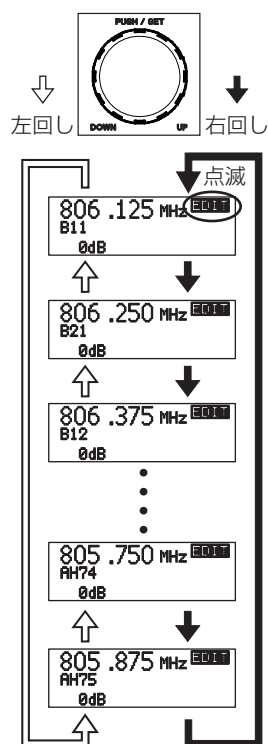


図 C



メニューモードで周波数を選択し、ジョグセクターを短押しすると設定モードに入り「EDIT」が点滅します。

ジョグセクターを回すことにより左記矢印の順に表示内容が変わります。
希望の周波数に合わせジョグセクターを長押しし、「STORED」の表示（左図 C）が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定が完了します。

途中で設定を中止する場合は、ジョグセクターを短押しします。
画面右上の「EDIT」の点滅が消えて、「MENU」の表示に変わります。

この設定モードに入った状態でジョグセクターの操作を行なわないと約 8 秒でメニューモードに戻ります。

そのままさらに約 8 秒間ボタン操作を行なわないとデフォルト表示に戻ります。

3. グループでチャンネルの設定

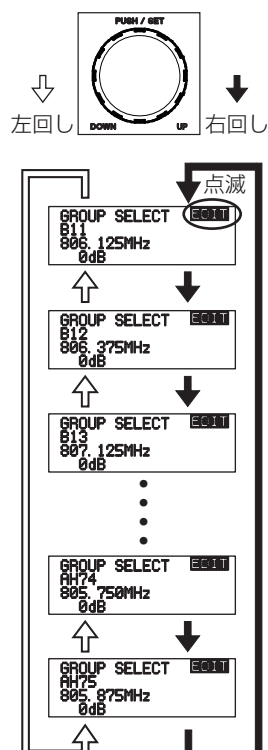
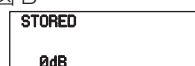


図 D



メニューモードで GROUP SELECT を選択し、ジョグセクターを短押しすると設定モードに入り「EDIT」が点滅します。

ジョグセクターを回すことにより左記矢印の順に表示内容が変わります。
希望のグループに合わせジョグセクターを長押しし、「STORED」の表示（左図 D）が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定が完了します。

途中で設定を中止する場合は、ジョグセクターを短押しします。
画面右上の「EDIT」の点滅が消えて、「MENU」の表示に変わります。

この設定モードに入った状態でジョグセクターの操作を行なわないと約 8 秒でメニューモードに戻ります。

そのままさらに約 8 秒間ボタン操作を行なわないとデフォルト表示に戻ります。

4. バンドでチャンネルの設定

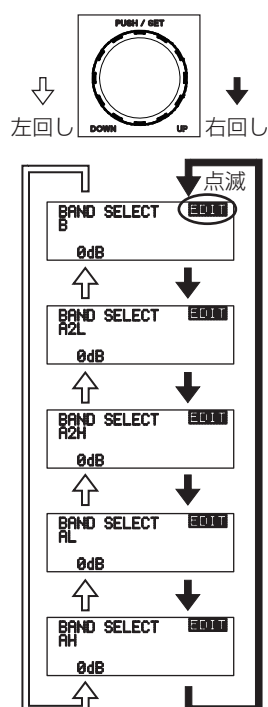


図 E 点滅が早くなる

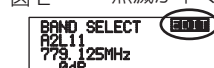
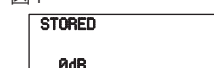


図 F



メニューモードで BAND SELECT を選択し、ジョグセクターを短押しすると設定モードに入り「EDIT」が点滅します。

ジョグセクターを回すことにより左記矢印の順に表示内容が変わります。

希望のバンドに合わせジョグセクターを短押しすると、さらにグループ / 周波数設定モード (左図 E) に入り「EDIT」点滅が早くなります。

ジョグセクターを回すことによりグループ / 周波数の選択が行なえ、希望のグループ / 周波数に合わせジョグセクターを長押しし、「STORED」の表示 (左図 F) が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定が完了します。

グループ / 周波数設定モード (左図 E) に入っている途中で設定を中止する場合は、ジョグセクターを短押しします。

画面右上の「EDIT」の点滅速度が遅くなり、バンド選択画面に戻ります。

ただし、バンド選択画面に戻った後に、さらにジョグセクターを短押ししても、グループ / 周波数設定モードに入るだけで、バンド設定モードを中止することはできません。

バンド設定モードを中止するには、バンド設定モードの画面で約 8 秒間ボタン操作を行わないでください。

なお、グループ / 周波数設定モードに入った状態でジョグセクターの操作を行なわないと約 8 秒でバンド設定に戻り、そのままさらに約 8 秒間ボタン操作を行なわないとメニューモードに戻ります。さらに、そのあと約 8 秒間ボタン操作を行なわないとデフォルト表示に戻ります。

5. アッテネーターの設定

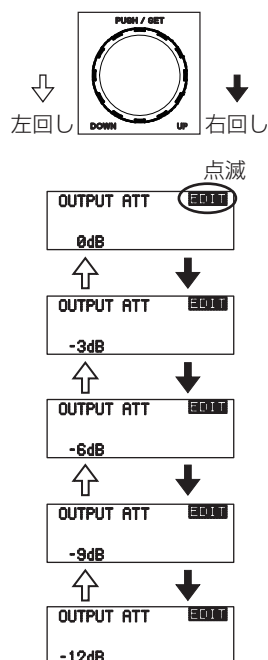


図 G



メニューモードで OUTPUT ATT を選択し、ジョグセクターを短押しすると設定モードに入り「EDIT」が点滅します。

ジョグセクターを右に回すと減衰量が大きくなり、左に回すと減衰量が小さくなります。

0dB、-3dB、-6dB、-9dB、-12dB の 5 段階の減衰量が選択できます。

希望の大きさに合わせジョグセクターを長押しし、「STORED」の表示 (左図 G) が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定が完了します。

途中で設定を中止する場合は、ジョグセクターを短押しします。

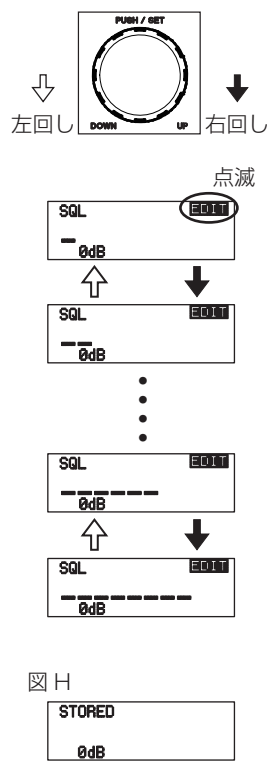
画面右上の「EDIT」の点滅が消えて、「MENU」の表示に変わります。

この設定モードに入った状態でジョグセクターの操作を行なわないと約 8 秒でメニューモードに戻ります。

そのままさらに約 8 秒間ボタン操作を行なわないとデフォルト表示に戻ります。

* 初期設定では 0dB に設定されています。

6. スケルチレベルの設定



メニューモードで SQL を選択し、ジョグセクターを短押しすると設定モードに入り「EDIT」が点滅します。

ジョグセクターを右に回すとスケルチレベルが高くなり、左に回すとスケルチレベルが低くなります。

表示バーの数が多いほど高い RF 入力レベルでもスケルチ動作します (8 段階の選択ができます)。

希望の大きさに合わせジョグセクターを長押しし、「STORED」の表示 (左図 H) が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定が完了します。

途中で設定を中止する場合は、ジョグセクターを短押しします。

画面右上の「EDIT」の点滅が消えて、「MENU」の表示に変わります。

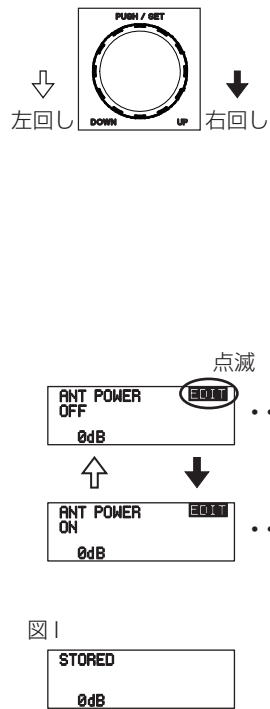
この設定モードに入った状態でジョグセクターの操作を行なわないと約 8 秒でメニューモードに戻ります。

そのままさらに約 8 秒間ボタン操作を行なわないとデフォルト表示に戻ります。

* 初期状態では最小に設定されています。

* スケルチレベルを上げすぎると、目的の電波を受信しにくくなりますのでご注意ください。

7. アンテナ電源の設定



メニューモードで ANT POWER を選択し、ジョグセクターを短押しすると設定モードに入り「EDIT」が点滅します。

ジョグセクターを右に回すと ON、左に回すと OFF になります。

希望の状態に合わせジョグセクターを長押しし、「STORED」の表示 (左図 I) が出るまで押し続けます。

この一連の操作で設定が完了します。

OFF : アンテナ入力端子に電源を供給しません。 ※ 付属のホイップアンテナや別売のアンテナデバイダーを使用する場合
ON : アンテナ入力端子に電源を供給します。 ※ ブースター内蔵の外部アンテナを使用する場合

途中で設定を中止する場合は、ジョグセクターを短押しします。

画面右上の「EDIT」の点滅が消えて、「MENU」の表示に変わります。

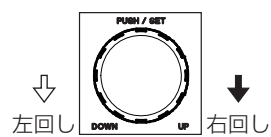
この設定モードに入った状態でジョグセクターの操作を行なわないと約 8 秒でメニューモードに戻ります。

そのままさらに約 8 秒間ボタン操作を行なわないとデフォルト表示に戻ります。

* 初期状態では ON に設定されています。

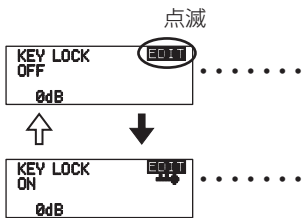
* レシーバー 1.2 どちらからでも設定可能です。

8. キーロックの設定



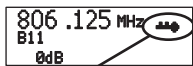
メニューモードで KEY LOCK を選択し、ジョグセクターを短押しすると設定モードに入り「EDIT」が点滅します。

ジョグセクターを右に回すと ON、左に回すと OFF になります。
希望の状態に合わせジョグセクターを長押しし、「STORED」の表示 (左図 J) が出るまで押し続けます。



この一連の操作で設定が完了します。
OFF：受信機設定データを変えることができます。

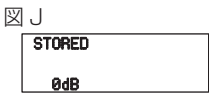
ON：受信機本体の設定変更ができません。
受信機の設定変更は、KEY LOCK OFF にしてから行なってください。



キーロック ON のときは
ディスプレイに鍵マーク
が出ている

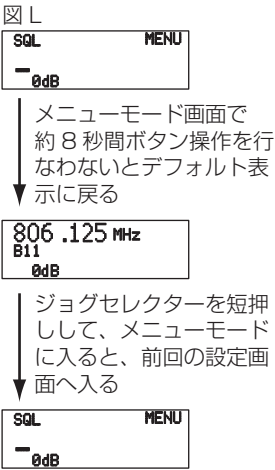
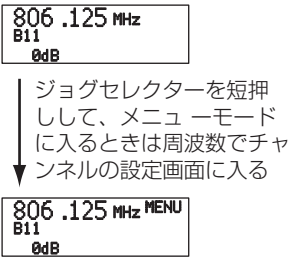
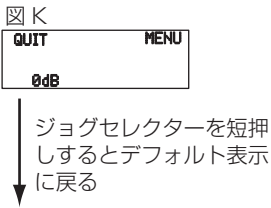
途中で設定を中止する場合は、ジョグセクターを短押しします。
画面右上の「EDIT」の点滅が消えて、「MENU」の表示に変わります。

この設定モードに入った状態でジョグセクターの操作を行なわないと約 8 秒でメニューモードに戻ります。
そのままさらに約 8 秒間ボタン操作を行なわないとデフォルト表示に戻ります。



* キーロックは本体の電源を切っても保持されます。

9. デフォルト表示に戻る



メニューモードで QUIT を選択し、ジョグセクターを短押しします。
デフォルト表示に戻ります。
本機能でデフォルト表示にさせた場合、次にメニューモードを表示させるときは周波数でチャンネルの設定画面に入ります。(左図 K)

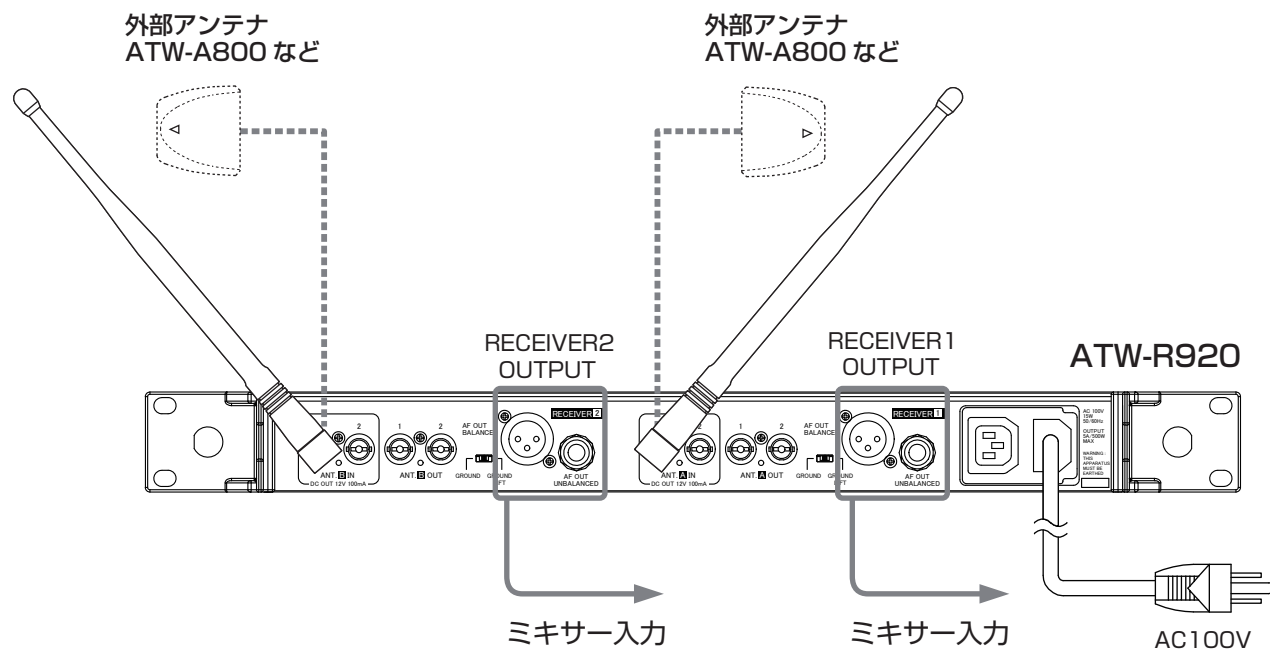
メニューモードで各々の設定画面にした状態でボタン無操作によりデフォルト画面に戻った場合は、そのあとメニューモードを表示させると、前回表示させていた設定画面になります。(左図 L)

- 初期状態
- | | |
|------------|--------------------|
| 周波数 | : 806.125MHz (B11) |
| OUTPUT ATT | : 0dB |
| SQL | : 最小 |
| ANT POWER | : ON |
| KEY LOCK | : OFF |

接続方法 1 (基本接続)

ATW-R920 を 1 台使用する場合の接続例です。

接続例



* 音声出力端子には XLR 3 ピンオスコネクター (マイク出力) と、 $\phi 6.3$ モノラルジャック (ライン出力) の 2 種類があります。
(両方同時に使用可能です。)

* 上図は付属のホイップ・アンテナを用いた場合の接続図です。広い場所で使用される場合や、ステージなどではブースト
アンプ内蔵外部アンテナ ATW-A800(別売)などを接続してください。(点線部)

外部アンテナ使用時の注意

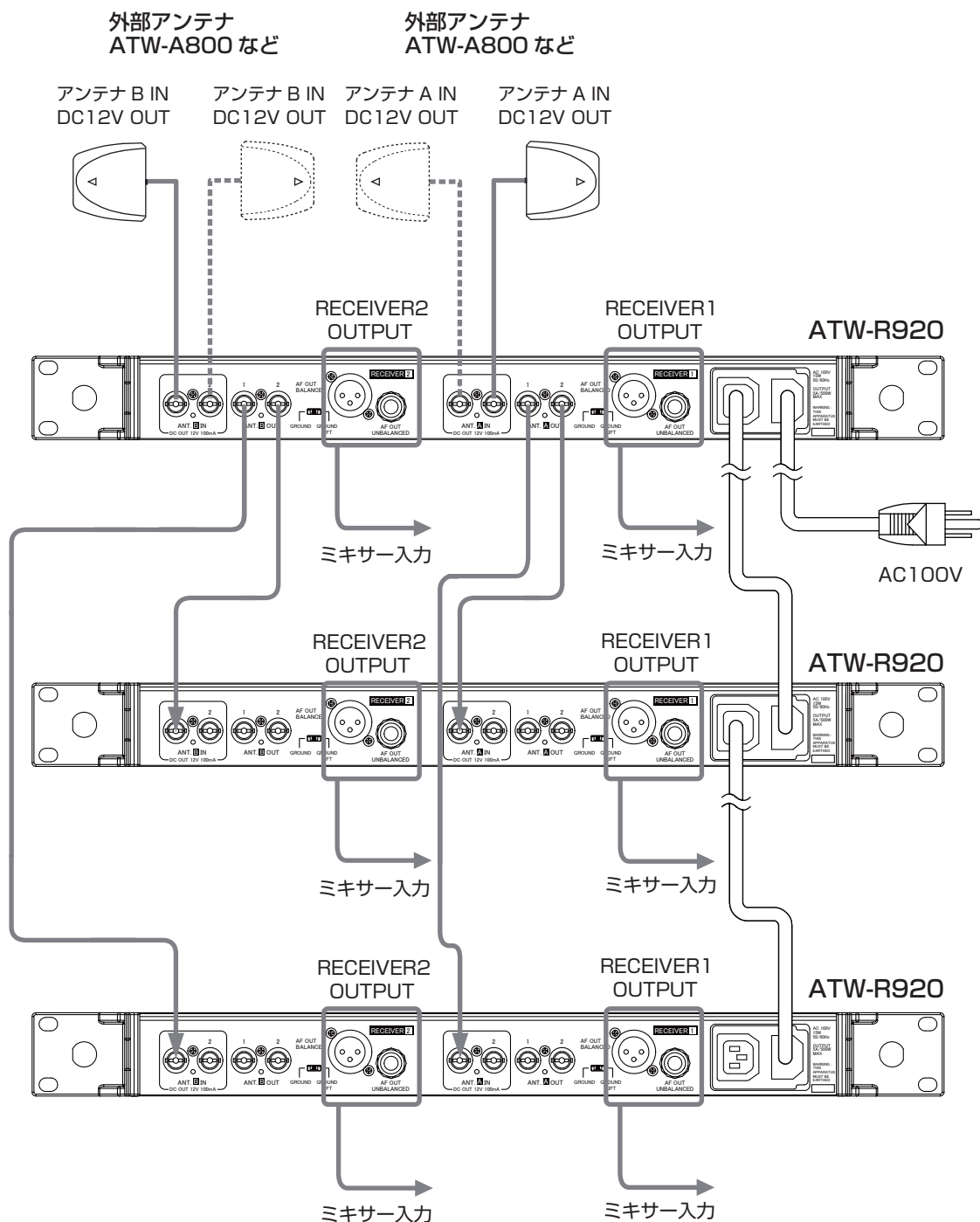
本製品の外付アンテナ用電源部には保護回路が内蔵されています。接続したアンテナの片側が配線の異常などによりショート
した場合、ただちに電源電圧が降下してしまいますのでほかの片側も動作しません。

配線終了後アンテナ、ブースターなどの電源インジケータが点灯していることを確認してください。

* 最大電流値は各アンテナ端子でそれぞれ 100mA です。

接続方法 2（カスケード接続）

ATW-R920 のアンテナ出力端子を使用することにより、アンテナディバイダーを使用せず、さらに 2 台のレシーバーをカスケード接続することができます。



* アンテナ出力端子を利用してカスケード接続できるレシーバーは最大 2 台までです。追加接続したレシーバーのアンテナ出力端子からさらに他のレシーバーに接続した場合、性能が充分に発揮できません。

* 付属のホイップ・アンテナを使用される場合は、各レシーバーごとにアンテナを取り付けてください。

グループ / チャンネル組み合わせ表

●本製品は A2 型 71 波 / A 型 71 波 / B 型 30 波まで選択可能です。1 ～ 7 はグループ、①～⑥はチャンネルを表します。

周波数表 A2 型 (L バンド : 36CH、H バンド : 35CH)

A 型 (L バンド : 36CH、H バンド : 35CH)、B 型 : 30CH

A2 型 L バンド

チャンネル グループ	①	②	③	④	⑤	⑥
1	779.125	779.375	780.125	780.750	782.000	782.500
2	779.250	779.500	780.000	780.875	781.500	781.875
3	779.625	779.875	780.375	781.250	781.625	782.250
4	779.750	780.500	781.000	782.125	782.375	782.750
5	780.625	781.125	781.375	781.750	782.625	
6	780.250					
7	782.875	783.000	783.125	783.250	783.375	783.500

(単位 : MHz)

A2 型 H バンド

チャンネル グループ	①	②	③	④	⑤	⑥
1	783.625	783.875	784.625	785.250	786.500	787.000
2	783.750	784.000	784.500	785.375	786.000	786.375
3	784.125	784.375	784.875	785.750	786.125	786.750
4	784.250	785.000	785.500	786.625	786.875	787.250
5	785.125	785.625	785.875	786.250	787.125	
6	784.750					
7	787.375	787.500	787.625	787.750	787.875	

(単位 : MHz)

A 型 L バンド

チャンネル グループ	①	②	③	④	⑤	⑥
1	797.125	797.375	798.125	798.750	800.000	800.500
2	797.250	797.500	798.000	798.875	799.500	799.875
3	797.625	797.875	798.375	799.250	799.625	800.250
4	797.750	798.500	799.000	800.125	800.375	800.750
5	798.625	799.125	799.375	799.750	800.625	
6	798.250					
7	800.875	801.000	801.125	801.250	801.375	801.500

(単位 : MHz)

A 型 H バンド

チャンネル グループ	①	②	③	④	⑤	⑥
1	801.625	801.875	802.625	803.250	804.500	805.000
2	801.750	802.000	802.500	803.375	804.000	804.375
3	802.125	802.375	802.875	803.750	804.125	804.750
4	802.250	803.000	803.500	804.625	804.875	805.250
5	803.125	803.625	803.875	804.250	805.125	
6	802.750					
7	805.375	805.500	805.625	805.750	805.875	

(単位 : MHz)

B 型

チャンネル グループ	①	②	③	④	⑤	⑥
1	806.125	806.375	807.125	807.750	809.000	809.500
2	806.250	806.500	807.000	807.875	808.500	808.875
3	806.625	806.875	807.375	808.250	808.625	809.250
4	806.750	807.500	808.000	809.125	809.375	809.750
5	807.625	808.125	808.375	808.750	809.625	
6	807.250					

(単位 : MHz)

*本製品は使用条件により 7 波以上の組み合わせも可能です。

表の 7 グループは 7 波以上同時使用のための補助周波数のグループです。

*表の 7 グループご使用の際と A2 型、A 型、B 型を組み合わせる 7 波以上同時使用の際は、当社プロオーディオ営業部までお問い合わせください。

チャンネルプラン例

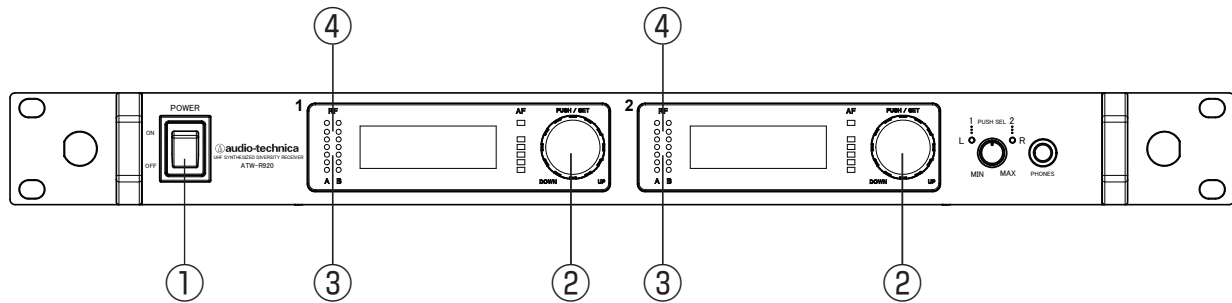
		A2L+A2H		
		7 波	10 波	
低 → 周波数 ← 高	A2 型	A2L11	A2L22	A2L22
		A2L12	A2L32	A2L61
		A2L24	A2L45	A2L14
		A2L26		A2L54
				A2L44
		4	3	5
	A2H	A2H21	A2H31	A2H41
		A2H35	A2H15	A2H53
		A2H46	A2H72	A2H16
			A2H74	A2H73
				A2H75
		3	4	5

上の表の A2 型 (FPU-2 帯) の組み合わせに右の表の AL-AH-B 型のいずれを組み合わせてもご使用になれます。

チャンネルプラン例

		AL+AH			AL+AH+B							
		7 波		10 波	11 波					12 波		
低 → 周波数 ← 高	A 型	AL	AL11	AL22	AL22	AL11	AL21	AL43	AL31	AL12	AL11	AL12
			AL12	AL32	AL61	AL32	AL22	AL44	AL23	AL41	AL12	AL31
			AL24	AL45	AL14	AL61	AL14	AL76	AL43	AL24	AL41	AL24
			AL26		AL54	AL54	AL25		AL36		AL14	AL34
					AL44						AL26	AL36
											AL75	AL72
		4	3	5	4	4	3	4	3	6	6	
		AH	AH21	AH31	AH41	AH12	AH41	AH43	AH22	AH11	AH52	AH42
			AH35	AH15	AH53	AH33	AH61	AH54	AH43	AH35	AH26	AH46
			AH46	AH72	AH16	AH54	AH55	AH75			AH45	
				AH74	AH73							
					AH75							
	3		4	5	3	3	3	2	2	3	2	
	B 型	B				B16	B51	B12	B23	B11	B41	B11
						B21	B54	B15	B61	B12	B54	B25
						B41	B45	B45	B14	B13	B55	B44
						B46	B46	B52	B26	B14		B55
								B55	B46	B15		
									B16			
					4	4	5	5	6	3	4	

操作のしかた



① 電源を入れます。

電源スイッチを ON にします。

② 周波数を設定します。

受信する周波数を選択します。
(詳しくは P.6 ～ 7 「周波数 / グループ / バンドでチャンネルの設定」をご覧ください。)

③ 送信機の電源を入れます。

RF レベルインジケータが点灯します。
送信機の周波数表示と同じであることを確認してください。

④ レシーバー A/B インジケータを確認します。

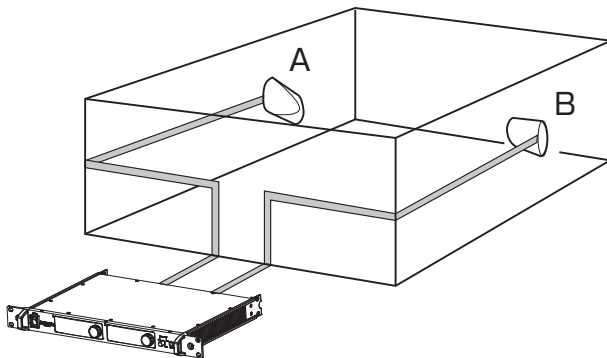
レシーバー A/B のどちらかが点灯することを確認してください。

⑤ マイクに音声を入れます。

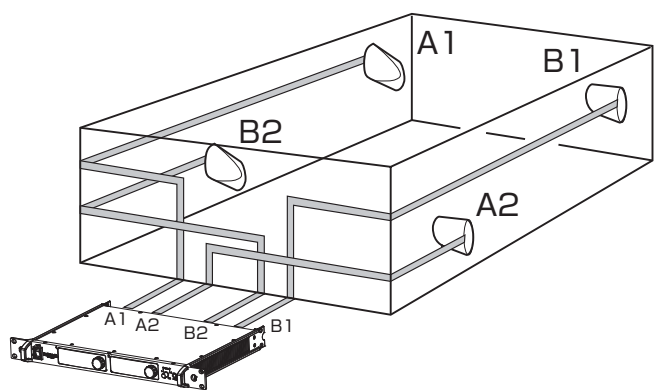
AF レベルインジケータが点灯することを確認してください。

外部アンテナ (別売) 使用例

1 セット使用時



2 セット使用時



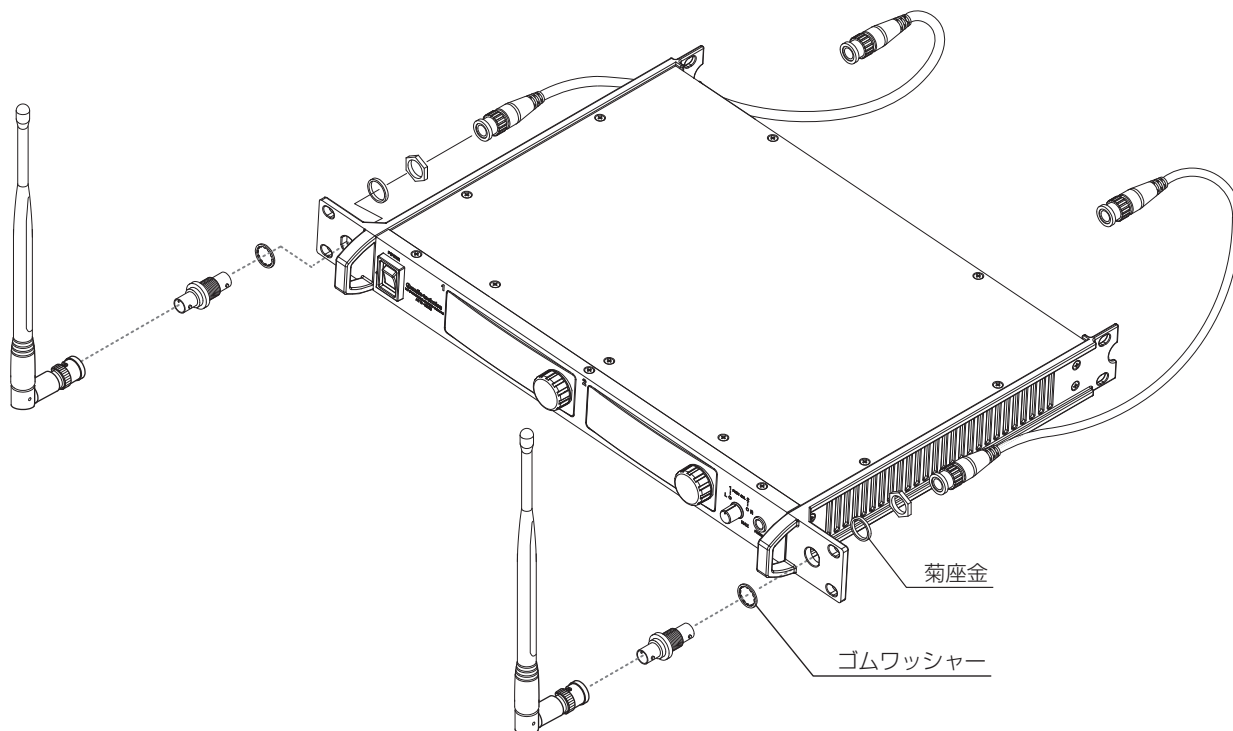
* アンテナ設置上の注意

アンテナ A とアンテナ B の距離は、30cm 以上 30m 以内としてください。ダイバーシティ受信ができなくなる可能性があります。

安定した受信のために

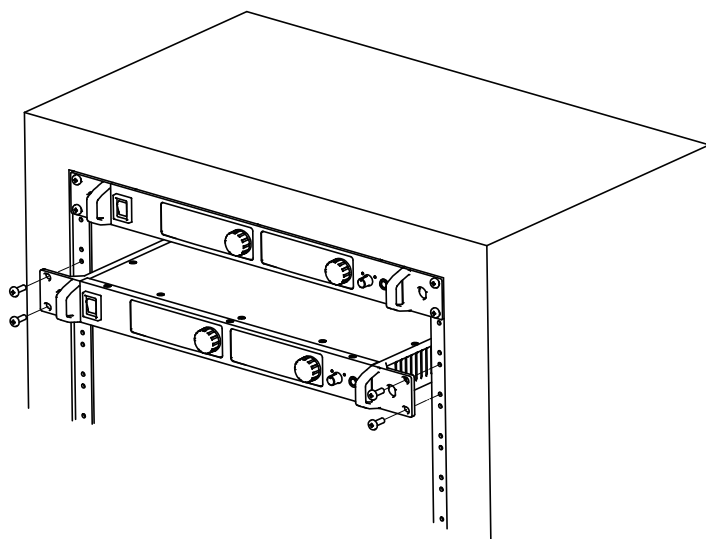
受信機のアンテナと送信機の間には障害物があると、電波が充分届かない場合があります。
見通しのよい場所に設置してください。設置場所が限定される場合は外部アンテナをご使用ください。

フロントアンテナ接続方法



* フロントアンテナ接続用の部品はすべて付属しています。

ラックマウントの方法



- * ラックへの取り付けネジは付属していません。
- * ラックマウントの際はラックの内部に熱がこもらないように、換気に配慮してください。
図のように受信機間は1段分あけることをおすすめします。

テクニカルデータ

受信方式	: ダブルスーパーヘテロダイン
受信周波数	: 779.125 ~ 787.875MHz : 797.125 ~ 805.875MHz : 806.125 ~ 809.750MHz
受信チャンネル	: 172 チャンネルのうち 2 チャンネル (A2+A+B)
受信感度	: 20dB μ V (SN 比 60dB、周波数偏移 $\pm$ 5kHz)
総合歪率	: 1%以下 (58dB μ V 入力、1kHz、周波数偏移 $\pm$ 10kHz)
SN 比	: 100dB 以上 (58dB μ V 入力、1kHz、周波数偏移 $\pm$ 40kHz)
オーディオ出力レベル	: バランス -48dB (周波数偏移 $\pm$ 5kHz) : アンバランス -28dB (周波数偏移 $\pm$ 5kHz)
アンテナ入力端子	: BNC 型 (50 Ω) DC12V 出力 (最大 100mA $\times$ 4)
オーディオ出力端子	: XLR3 ピン オス (バランス) : ϕ 6.3 モノラルジャック (アンバランス)
ヘッドホン出力端子	: ϕ 6.3 ステレオジャック、32 Ω 負荷時 10mW (周波数偏移 $\pm$ 10kHz)
電源	: AC100V 50/60Hz
動作温度範囲	: 5 $^{\circ}$ C ~ 45 $^{\circ}$ C
消費電力	: 15W
外形寸法 (突起物を除く)	: 482 (幅) $\times$ 44 (高さ) $\times$ 296 (奥行き) mm
重量	: 4.5kg

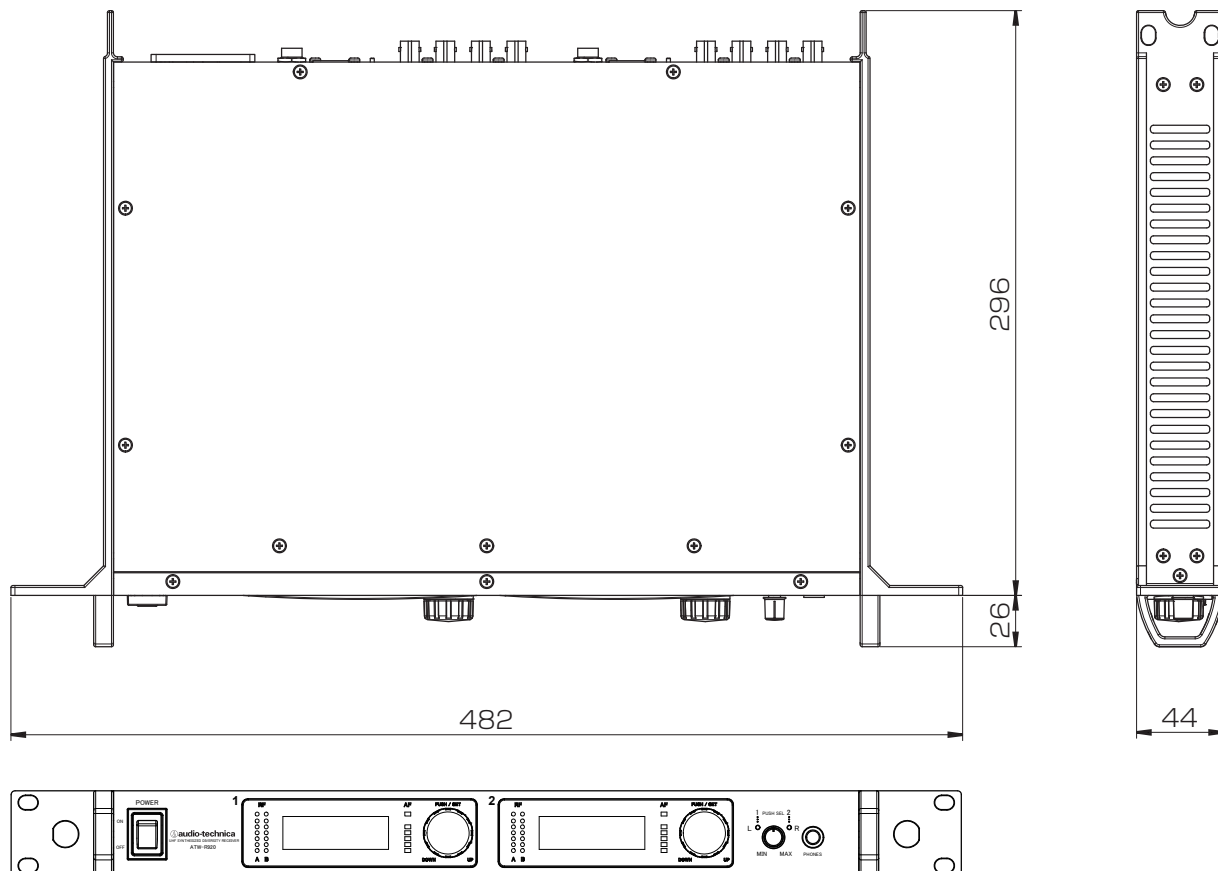
●付属品：1/2 λ ホイップアンテナ $\times$ 2、電源コード、電源中継コード、足 $\times$ 4 (取り付けネジ 4 本)
BNC-BNC コネクタ $\times$ 2、BNC-BNC ケーブル (長 $\times$ 1、短 $\times$ 1)、3P-2P 電源プラグ

●本製品は日本国内専用モデルです。

(改良などのため予告なく変更することがあります。)

外形寸法図

(単位 : mm)



株式会社 **オーディオテクニカ**

〒194-8666 東京都町田市成瀬2206

<http://www.audio-technica.co.jp>

232304400B